

信用取引

技の巻

取引がなかなかうまくいかない!
もっと信用取引を資産運用に活用したい!
知らないテクニックを教えてください!

そんなあなたに、とっておきの

信用取引の「技」を伝授します。

ぜひご一読ください。

kabu.com カブドットコム証券



これであなかも
免許皆伝!

「二階建て」に注意し、
ポジション管理とすべし!

お手持ちの現物株を担保に、同銘柄を買建てることを「二階建て」と言います。万一、その銘柄が大幅下落したり、連日ストップ安で売りたいくても売れなくなったりしたとき、担保と建玉の両方で損失が拡大することとなりますので、「二階建て」は非常にリ

スクの高い状態です。十分に資金余裕があるなどで、そのリスクを十分に理解した上でなければ、避けた方が無難です。

また、「二階建て」でなくとも、似たような銘柄ばかりを買建てたり、現金担保のみで空売りばかりを目一杯建てた

り、といった極端な建玉ポジションは、当たれば大きいですが、外れると一気に大きな損失となる可能性があります。

たとえば、円安で上昇しやすい銘柄を買う場合、円高で上昇しやすい銘柄も買ったりスク分散する。内需株ばかりを売建てる場合、せめて一部は輸出株を買っておく。など、すべての建玉や持ち株が損か得かの一方にならないようにバランスをとることに

よって、追証になりにくいポジション管理が行えます。

- A 新規売建て**
21万円信用売りした銘柄に、安値プラス1万円になったら、成行買い決済のトレーリングストップを設定。
- B C** 自動的に逆指値が切り下がる安値の更新に応じて、トレーリングストップの逆指値も切り下がる。
- D 買い返済**
切り下がった逆指値の水準まで株価が反転したため、トレーリングストップがヒットし、買い返済が約定。

逆日歩がついた銘柄を信用取引で売買する場合には注意が必要で、「逆日歩に買いなし」「逆日歩に売りなし」といった正反対の相場格言があるくらいです。逆日歩がついていない通常の状態であれば、信用取引の買い方が金利を支払うのですが、逆日歩銘柄の場合、売り方が逆日歩を支払い、買い方が受け取るようになります。

しかし、「一般信用(長期信用)」の場合、逆日歩はありませんので、逆日歩銘柄でも売り方は逆日歩を支払わなくてもすみますし、買い方は受け取れません。ですから、逆日歩銘柄を売りから入る場合は「一般信用(長期信用)」で売り、買いから入る場合は「制度信用」で買い、逆日歩を受け取った方が、逆日歩の分だけお得です。これを逆にしてしまつと、逆日歩と金利を両方払うこととなります。

逆日歩がついた銘柄を信用取引で売買する場合には注意が必要で、「逆日歩に買いなし」「逆日歩に売りなし」といった正反対の相場格言があるくらいです。逆日歩がついていない通常の状態であれば、信用取引の買い方が金利を支払うのですが、逆日歩銘柄の場合、売り方が逆日歩を支払い、買い方が受け取るようになります。

逆日歩がついた銘柄を信用取引で売買する場合には注意が必要で、「逆日歩に買いなし」「逆日歩に売りなし」といった正反対の相場格言があるくらいです。逆日歩がついていない通常の状態であれば、信用取引の買い方が金利を支払うのですが、逆日歩銘柄の場合、売り方が逆日歩を支払い、買い方が受け取るようになります。

■ 制度信用と一般信用の比較

	制度信用		一般信用(長期信用)	
	評価	評価	評価	評価
買建	逆日歩	つく	つかない	×
	金利	かかる	かかる	△
	銘柄数	ほぼすべて	ほぼすべて(上場初日からOK)	◎
売建	逆日歩	つく	つかない	◎
	貸株料	かかる	かかる	△
	銘柄数	多い	357銘柄*1	△
	返済期限	約6カ月	約3年*2	○

*1:2009年3月3日現在の銘柄数です。*2:上場廃止、株式併合、株式分割、権利処理等により、返済期限(期日)が前倒しする場合があります。

「二階建て」で売り、「制度信用」で買うべし!

ご注意を。
これを活用して、逆日歩銘柄を「一般信用(長期信用)」で売ると同時に「制度信用」で買って両建てにして逆日歩をゲット

こうやって制度信用と一般信用を使い分けるとおトクですね!



するといふ手もあります。ただし、逆日歩は日々つたりつかなかったりしますし、その金額も変化します。それに買建てる金利や手数料等のコストにも注意が必要です。



技 其ノ式

休業日(土・日・祝日)を
活用/注意すべし!

信用取引の逆日歩は、売買を行った「約定日」ではなく「受渡日」が基準となります。

例えば、信用取引で新規に買建てた場合、その受渡日から返済売りの受渡日の前日分まで逆日歩がもらえます。

そのため、連休の前と後に新規と返済の受渡日が来る場合、思わぬ日数分の逆日歩が発生することがあります。

2009年のゴールデンウィークなら、4月27日に新規買いし、翌28日に返済売りの場合、それぞれの受渡日は、5月1日と7日となり、1日から6日までの6日分発生することとなります。図のように制度信用で逆日歩銘柄を27日に新規買いして、翌日返済売りすると、6日分の逆日歩がつかれます。

売買タイミングにも関わりますので、年末年始や連休があるときは特に意識しておきましよう。

■ 2009年のゴールデンウィークの例

月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
4/27	28	29	30	5/1	2	3	4	5	6	7
新規買い	返済売り	昭和の日		新規買い 受渡日		憲法記念日	みどりの日	こどもの日	振替休日	返済売り 受渡日

逆日歩

今日買って、明日売るのに、逆日歩6日分ももらっていいんですね!

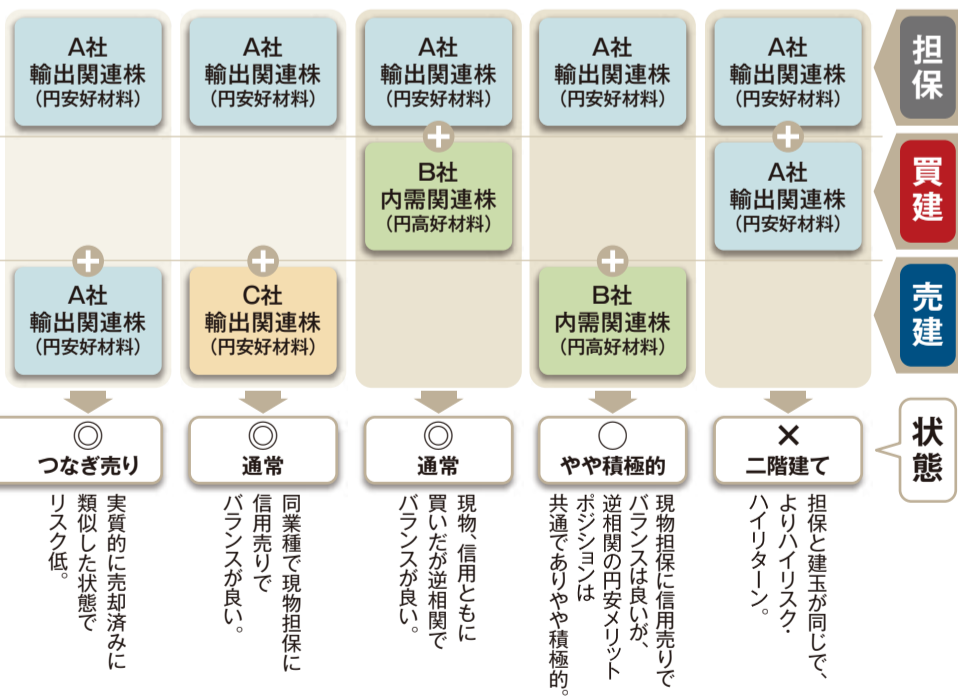


■ つなぎ売りの例



現物株は中長期で保有したまま、信用取引で上がったところでつなぎ売りをし、下がったところで返済の買い戻し。リスク管理と積極売りの二段構えが狙えます。

■ 信用取引のポジション例

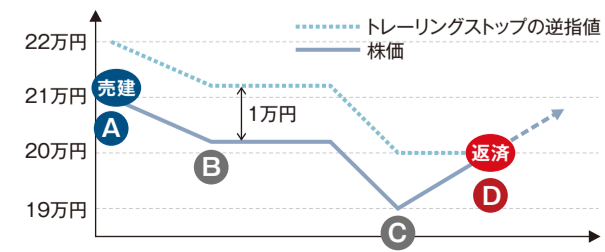


ワンポイント

空売りの利益確定に、
トレーリングストップを活用しよう!

高値/安値にあわせて、逆指値注文をリアルタイムに自動修正するトレーリングストップは、買建だけでなく空売りの利益確定でも威力を発揮します。「安値を更新するようであれば利益を伸ばしたいけれど、一定値段反発するようであれば利益確定したい」という欲張りな希望をかなえてくれるのがトレーリングストップ注文です。

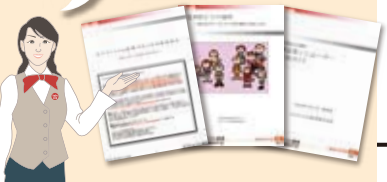
信用売りの建玉に対して、安値プラス1万円の逆指値でトレーリングストップを発注したケース



他にも信用取引に関する資料をご用意しています!

- 「カブドットコム証券で始める信用取引」
- 「信用取引10の質問」
- 「保証金シミュレーター活用ガイド」

当社のお客さまマイページ「サポート」操作画面2案内>取引画面解説」からPDFをダウンロードいただけます。



ワンポイント 個別銘柄の信用取引の動向をチェックしよう!

信用情報

週1回発表!

信用情報は毎週、第2営業日の大引け後の公表とともに更新されます。これには売買証券会社の自己融資分も含まれているため、一般信用分を含め信用取引の動向をより正確に把握することができます。

信用情報			
貸借	売	買	
信用残	3,913,000	2,825,500	
前週比	430,600	13,500	
倍率	0.72		

どちらも信用取引において重要な情報です。必ずチェックし、投資成績UPに役立てましょう!

日証金 貸借取引残高

毎営業日発表!

貸借取引残高は、日本証券金融が公表する貸借取引の融資と貸株との差引残高です。一般信用や証券会社内で売り方と買い方が相殺されて処理されている分は含まれないため、注意が必要ですが、毎営業日夕刻に公表されるため、速報性が高いと言えます。

日証金 貸借取引残高					
	貸株	融資	貸借差	売申し込み	買申し込み
新規	171,000	56,800	2,300	186,300	
返済	291,800	15,300	0.27	348,600	
残高	1,505,700	402,200	逆日歩		
	(-120,800)	(41,500)	株不足	1,108,500	
差引	-1,108,500	182,300			
回転日数	3.3				

A 当日の売買と残高を把握! 貸株/融資

B 買建・売建の比率を把握! 貸借比率/倍率

C 売買の活発さをチェック! 回転日数

貸株は信用売り、融資は信用買いの意味です。新規は当日新規建てられた株数、返済は当日返済された株数。残高は、新規建てと返済を差し引きしたあとの残りすべての建玉残高となります。

貸借比率は、1倍以上となるのが一般的。信用売りが増えて1倍に近づいたり割込むと将来の買い戻し圧力となり、需給が良く上昇しやすい傾向にあると言われています。逆に倍率が高い場合、信用で買っている人が多いということですが、先々の売り要因となり、需給が悪く上昇しにくいと言われています。

回転日数とは、新規で信用取引を行ってから、返済するまでの日数です。一般的に回転日数が10日前後であれば、売買は活発だと考えられます。さらに回転日数が5日を切ると、過度な取引が行われていると判断され、目先株価の天井が近いと言われています。

株式市場と買い残・売り残の関係

	信用買い残増	信用売り残増
投資家心理	目先の上昇を予想する人が多い	目先の下落を予想する人が多い
需給	将来の売り圧力	将来の買い圧力
株価への影響	下落要因	上昇要因

▶ kab u マシーン™ のチャート



信用買い残高が増えることは、目先その銘柄が上昇すると考えている人が多いことを意味し、信用売り残高が増えることは、目先その銘柄が下落すると考えている人が多いことを意味します。しかし、

制度信用取引では原則6ヶ月以内に返済しなければいけないため、買い残高の増加は、将来の売り圧力となり、売り残高の増加は将来の買い戻しの応援ともいえるでしょう。左の例のように、上昇局面

信用残と回転日数を参考にすべし!



信用売り残高が増えている場合、評価損を抱えた売り方があるのロスカットによる返済買いが同時に進むと買い戻しのパワーが膨れ上がり株価が急騰します。これを売り方の買い戻しによる「踏み上げ」と言います。信用取引の残高等の情報は、株価の動向も左右しますので、必ずチェックしてください。情報は当社マーケット情報からご確認ください。

技 其ノ四

▶ 約定確率予測



サイン通り 売買していれば、投資額の3倍も儲かったんですね!

▶ kab u カルテ

※kab u カルテはシミュレーションツールであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。

項目	買い	売	約定率	約定率	約定率
RSI	RSIが40以下で70以上で下抜け	RSIが40以上で70以下で下抜け	27	224	124
MACD	MACDが0以上で下抜け	MACDが0以下で下抜け	54	167	112
25日移動平均線	-7%以下	7%以上	17	203	156
75日移動平均線	-10%以下	10%以上	10	189	173
一目均衡表	雲を上抜け	雲を下抜け	7	131	93
サイコロジカル	30%以下	70%以上	9	114	97
ゴールデンクロス	5日線が25日線を上抜け	5日線が25日線を下抜け	17	186	114
75日線移動平均線	-18%以下	18%以上	7	131	93

過去2年間25日移動平均線乖離率が-7%を下回ったら買い、+7%を上回ったら売りとした場合、17回の売買で+303%のパフォーマンスとなったことを示しています。

短期売買の信用取引において、売買タイミングの目安にテクニカル分析を活用する人は多いでしょう。しかし、沢山のテクニカル分析を理解していたとしても、「その銘柄や相場状況にあったテクニカル分析はなにか?」を検証するのは骨が折れます。しかし、当社の「kab u カルテ」は11種類のテクニカル指標による24通りの売り買いサインを元にシミュレーションを行い、「どのサインが勝率やパフォーマンスが高いか?」

「今はそのサインで見て買いだ!」今はそのサインで見て買いだ! 「今はそのサインで見て買いだ!」今はそのサインで見て買いだ!

技 其ノ伍

タイミングの判断は「kab u カルテ」を参考にすべし!



「kab u カルテ」を参考にすべし!

大口のお取引ほど、有利な手数料体系です!

信用取引手数料 (税込)	前営業日の建玉残高または前営業日の新規建て約定代金			
	0円以上 3000万円未満	3000万円以上 5000万円未満	5000万円以上 7000万円未満	7000万円以上
50万円以下	483円	458円	338円	0円
100万円以下	798円	758円	558円	
200万円以下	987円	937円	690円	
500万円以下	1,155円	1,097円	808円	
500万円超~100億円	1,260円	1,197円	882円	

信用取引は、割引プラン「ファンドDE割引」「kab u マシーンの日」の対象です。※前営業日の建玉残高とは前営業日に返済されていない建玉総額。前営業日の新規建て約定代金とは前営業日の新規建て約定金額(売建・買建、内出来を含む)の合計です。※前営業日の建玉残高と前営業日の新規建て約定代金の高い方を適用。※当日6:00以降のご注文は自動的に手数料割引率が適用されます。※取引チャネル、執行条件にかかわらず上記手数料が適用されます。※ジャスダックは「約定代金×0.021%」の追加手数料が別途かかります。

さらに カブドットコム証券なら、信用取引口座の即日口座開設が可能!

カブドットコム証券のリスク管理追求型信用取引は、ココがポイント!

発注はリアルタイムで変動する板画面から!

板41 銘柄の同時表示が可能

リアルタイムで建玉・保証金を把握!

保証金シミュレーター 無料

「リアルタイム維持率」機能を搭載!

計算(リアル維持率)

- ▶ 自動売買(逆指値・トレーリングストップなど)をはじめとしたリスク管理追求型サービス!
- ▶ 株券・投資信託を保証金(担保)として活用できる!
- ▶ Quick、日経ニュースをはじめとした投資情報サービスが充実!

●証券投資は価格変動、金利変動、為替変動、基準価額の変動等により投資元本を割り込む恐れがあります。●信用取引は、取引金額が保証金の額に比べて大きい金額となり、投資額以上の損失を生じる可能性があります。また信用取引には期限があり、期限を越えてのお取引はできません。●自動売買を含むすべてのご注文は、必ず約定するものではありません。●各商品等へのご投資には、商品ごとに所定の手数料等が必要です。●お取引の際は、約款・規定集および契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスクおよびお取引ルール等を十分ご理解の上、銘柄選択、投資時期、投資スタイル等、投資の最終決定はご自身の判断と責任において行ってください。●掲載情報は2009年3月23日現在のものです。最新情報および詳細は当社ホームページにてご確認ください。